

只見町 認定こども園整備基本計画

「ぶなのもり こども園」

子どもを真ん中に、地域が育つ“教育の郷”へ

なぜ、新しいこども園をつくるの？

安全・安心な環境へ

現在の3保育所（只見・朝日・明和）は築41～46年が経過。子どもたちの安全を最優先し、最新の設備と雪国対応の防災機能を備えた新しい園舎が必要です。

集団生活のゆとりと豊かさ

少子化の中でも、子どもたちが多様な友達と関わり合い、社会性や思いやりを育むための「適正な規模の集団」を確保します。

質の高い教育・保育の提供

保育教諭等が一箇所に集まることで、配慮が必要なお子様への手厚いサポート体制や、延長保育の一元化が可能になります。

どんな子どもに育ててほしいか

めざす子ども像



豊かな心：
たくましく
思いやりのある心



考える力：
自ら進んでじっく
りと考える力



健康な体：
五感で感じ進ん
で行動する体

土台・根

園・家庭・地域の一体感。
個々のかけがえのない育ちを共
有し、保護者に寄り添う支援。

幹

只見町の地域資源（人・もの・こ
と）を生かした、多様で豊かな
生活経験と遊びの積み重ね。

これまでと、これから (メリット)

これまで

これから

施設環境

建物の老朽化と
手狭な空間



施設環境

地元木材を活用した、
広く安全な新園舎



延長保育

各地区で実施、
職員の負担や
シフト調整が困難



延長保育

新園で一括対応。
まとまった職員体制で
手厚く見守ります



交流拠点

ご兄弟で別の施設に
分かれることも



0~5歳児まで1箇所交流。小中学生との交流



小学校への接続

小学校と物理的な
距離がある



小学校・中学校に隣接し、自然な交流で「小1の壁」をなくします



施設整備を支える6つの柱



多機能・フレキシブルな共有スペース



大ホール（屋内交流スペース）

入卒園式の儀式や、放課後子どもクラブの活動拠点。
異年齢交流や合同ランチルームとしての可変性。



子育て支援エリア（地域全体の拠点）

未就園児家庭の交流、一時預かり、育児相談窓口
を集約し、孤立を防ぐ支援ハブ。



屋外園庭（自然体験の最前線）

インクルーシブ遊具の設置、食育のための菜園、
防犯対策を施した安全な外遊び空間。

施設が集い・人が交わる「教育の郷へ」 朝日小学校校庭跡地に整備します

広さと安全性

現在の施設では確保が難しい「広い園庭」と、送迎時の混雑を解消する「安全な駐車スペース」を確保するため、この場所を選びました。



小中一貫・幼小連携の拠点

小学校・中学校に隣接することで、先生同士の連携や児童生徒との日常的な交流が深まります。これにより、小学校入学時の不安（小1の壁）を取り除き、スムーズな就学をサポートします。



令和10年度、新しい只見の未来の開園を目指します。

【令和8年度】
基本・実施設計

【令和9年度】
建設工事

【令和10年度】
「ぶなのもり
こども園」開園
を目指す

「たくましく思いやりのある豊かな心、健康な体、自ら考える力。」
只見の豊かな自然と地域社会に見守られながら、
子どもたちの未来を創る“教育の郷”が、ここから始まります。

園・家庭・地域が一体となって育てる

新しい園舎の完成がゴールではありません。

ここから10年、20年先を見据え、只見町の宝である子どもたちを、
保護者の皆様と一緒に愛情たっぷりに育む
「新しい拠点」をつくりあげていきます。

すべての子どもたちが自分らしく、たくましく育つ
「ぶなのもり」へ。今後の整備計画に、どうぞ
ご期待とご協力をよろしくお願いいたします。